舞鶴市議会
市民文教委員会
活動報告

- 神奈川県藤沢市における取組の調査
- 宮城県岩沼市における取組の調査
- 栃木県宇都宮市における取組の調査

市民文教委員会調査視察　　実施日：令和6年5月7日～9日

視察の目的

　子どもの居場所づくりを推進するため、本市でも子どもの居場所の一つとして、子ども食堂への支援に取り組んでいる。今後は、子ども食堂を起点としたより広い地域で多くの子どもたちが居場所として利用できる環境を市全体で整えていく必要があると考えることから、子ども・若者の居場所づくりに取り組んでいる岩沼市と宇都宮市の事例を調査することとした。

　また、ごみ収集において、ごみの取り残しを減らすため、地域の立ち番による監視強化をしなければならず、地域負担が増している現状にあることから、ごみの減量・資源化・啓発に関する取組やごみ収集の地域負担の軽減策など、藤沢市の事例を調査することとした。

「市民文教委員会の令和６年の重点事項」

(1)　子ども・若者の居場所づくりに関する調査・研究

(2)　ごみ収集の地域負担を軽減する取組に関する調査・研究

舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。

視察先及び日程

日	程	視察先	調査事項
令和6年5月7日（火）	午後2時～4時	神奈川県藤沢市	ごみの減量・資源化・啓発に関する取組について
令和6年5月8日（水）	午後1時～2時30分	宮城県岩沼市	子ども・若者の居場所づくりについて
令和6年5月9日（木）	午前10時～11時30分	栃木県宇都宮市	子ども・若者の居場所づくりについて

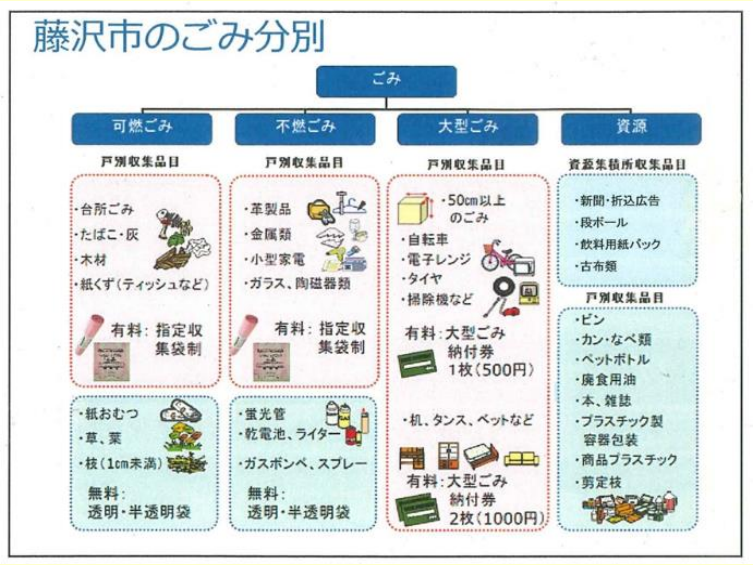
市民文教委員会調査視察　実施日：令和6年5月7日～9日

【神奈川県藤沢市】調査事項：ごみの減量・資源化・啓発に関する取組について

≪藤沢市の取組の概要≫

◇　平成19年10月からは、可燃ごみと不燃ごみを対象としたごみ処理有料化（有料指定袋制）を実施され、市民負担の軽減及び資源収集に対する課題を解消するとともに、資源の出しやすい環境づくりを目的として取り組んでおられた。

◇　平成24年４月から資源品目別戸別収集を実施されており、資源の分別当番（立ち番）や資源集積所の移設・新設並びに維持管理、通行の支障など資源集積所に関わる問題を解消し、市民負担の軽減やリサイクルの推進に努め、さらなるごみの減量化を目指されていた。



≪委員の所感≫

○　「一声ふれあい収集」は、体制や対象者への配慮がされており、市民にやさしいごみ行政であると感じた。

○　ごみ行政の考え方として「ごみを資源に」から「ごみと資源」がはっきりと区別されており、基本計画等からもこれまでの取組実績で全国平均と比較してごみ排出量が改善されている中、さらなる高みを目指して事業を推進されていることに意識の高さを感じた。

市民文教委員会調査視察　実施日：令和6年5月7日～9日

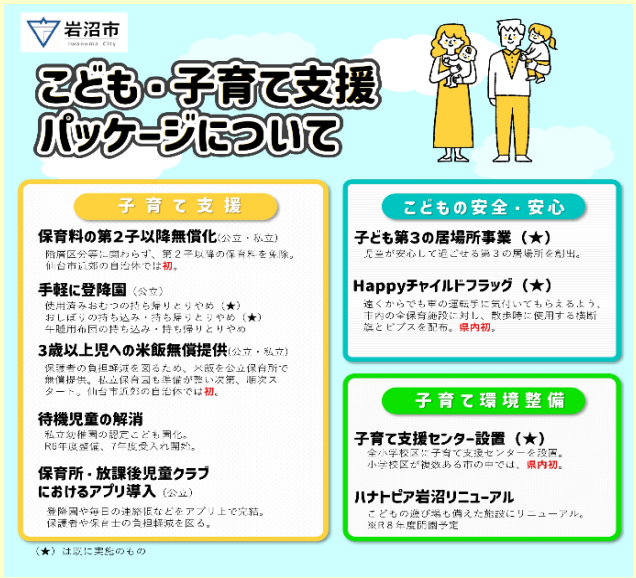
【宮城県岩沼市】調査事項：子ども・若者の居場所づくりについて

≪岩沼市の取組の概要≫

◇　子どもの居場所として、すべての子どもたち一人ひとりの力を育み、家族を地域で支えるために「子ども第三の居場所いわぬまきち」が設置されていた。

◇　さらに、登校が難しい状況にある児童生徒やその保護者を支援し、児童生徒の自立や学校復帰を目的とした「いわぬま子どもの心のケアハウス」（愛称：あいるーむ）が運営されていた。

◇　「いわぬまきち」と「あいるーむ」は、共に児童生徒の居場所をつくるという目的では共通していますが、「いわぬまきち」は、学校への登校が難しい児童生徒だけではなく、保護者を含めた家庭環境や経済状態について幅広く対応されていた。



≪委員の所感≫

○　子どもの居場所として、子どもの状況に合わせた選択肢や対応については考慮されていると感じた。

○　設備設置や運営についての予算は、日本財団からの提供となっており、実施期間の３年後には市の事業として財源確保が必要になることから、財政面に課題があるものと考える。

○　市内で活躍中のＮＰＯ法人が同様のサポート事業を展開されている中、さらなる広がりで「子ども第三の居場所」づくりを実施されていることから、専門性を持ち合わせた安心できる居場所となっていると感じた。

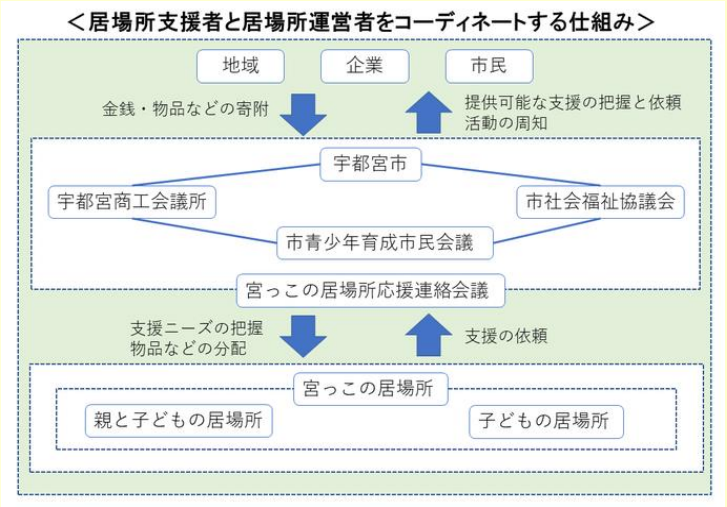
市民文教委員会調査視察　実施日：令和6年5月7日～9日

【栃木県宇都宮市】調査事項：子ども・若者の居場所づくりについて

≪宇都宮市の取組の概要≫

◇　子どもたちが行きたいときに気軽に行けて大人の見守りのもと宿題をしたり、食事をしたりしながら安心して過ごせる居場所である「宮っこの居場所」として、「親と子どもの居場所」「子ども食堂」「青少年の居場所」といった子どもの居場所づくりを推進されていた。

◇　「宮っこの居場所」を支援するため，宇都宮市、宇都宮商工会議所、宇都宮市社会福祉協議会、宇都宮市青少年育成市民会議が連携して「宇都宮市宮っこの居場所応援連絡会議」を設置されていた。また、寄附を募集し、「子ども居場所づくり事業基本補助金」や「子ども居場所づくり事業支援付加補助金」を創設するとともに、子どもの居場所づくり事業に要する費用の一部に補助金を交付し、地域における子どもの居場所の設置促進及び質の確保に努め、さらなる支援の充実を図られていた。



≪委員の所感≫

○　支援の必要な子どもに対する早期把握から親への早期支援、さらには専門的支援を要する対応まで子育ての負担軽減を図る取組は、先進的なものであると感じた。

○　地域の協力体制では、意識が高く、子どもたちの心地よい居場所となっていると感じた。

○　財政的な支援としては、基本補助金、支援付加補助金、寄附金の配分や新たに子どもの居場所づくり開設に取り組む方に対する支援等の説明会の実施が十分されており、事業が実施しやすいのも特徴であると感じた。

○　子ども食堂に対して貧困というイメージを払拭するため、近隣住民の理解促進を図るほか、企業の協力体制も充実していると感じた。